

# 明日への学び

2013年 7月 25日 発行  
 発行：福井県教育委員会  
 福井県学力向上センター  
 TEL：0776-20-0295  
 メール：[gakukyousei@pref.fukui.lg.jp](mailto:gakukyousei@pref.fukui.lg.jp)

## 「夏休み明け」に向けて

### ～夏休みは9月に向けての「準備期間」かつ「自己研鑽の時期」～

ほとんどの学校で夏季休業に入ったことと思います。今回はまず、9月に向けてやっていただきたいことをまとめました。力点を置いて取り組んでいただきたいことを、校種別に次ページから挙げています。

新年度から4か月近くが経過しました。4月当初には地に足がついていなかった子どもたちも、この時期になると学校生活に慣れてきています。夏休みは、突然多くの時間が与えられることになり、この時期を境に、子どもたちが大きく変化することがあります。家庭訪問時や登校してきた時の様子、地域活動・部活動などでの様子に注意を払い、7月までの学習・生活面の様子もしっかり振り返って、9月以降の指導に活かす必要があります。子どもたちの夏休みの様子にアンテナを張りつつ、万全の準備を整えて夏休み明けを迎えてください。

現代は、情報通信機器の目覚ましい進歩に象徴されるように、社会が大きく変化し、それに伴って子どもたちの周辺も激しく変化しています。教育現場も含め、教員はこのような変化に常に敏感である必要があります。新しいものにも目を向け、知見と教養を広めていかなければなりません。そのために必要な英語力等を教員自身が身につけるのも大切なことです。

生徒全員が朝早くから夕方遅くまで登校していた学期中に比べると、教員の生活にも少しゆとりができたのではないのでしょうか。季節による勤務環境の変化が少ない民間企業などと比べれば、この時期は教員という職業に特徴的な時期です。もちろん、ゆとりがあると言っても、やるべきことはたくさんあります。目的意識もなく夏休みを過ごせば、毎日の生活に流されてしまい、何となく9月を迎えてしまいます。

教員の世界は閉鎖的であるとよく言われます。地域での活動やボランティア活動など、普段なかなか参加できないことに積極的にチャレンジしてください。教員以外の世界とネットワークを構築することは、新しいものの見方、教員とは違った考え方を教えてくれます。

夏休みの子どもたちの支援指導や、9月に向けての準備が大切であることは言うまでもありませんが、そのうえで各種研修に参加し、「自己研鑽」に取り組むことも大切です。テレビやラジオでもさまざまな講座番組が用意されているように、「自己研鑽」のヒントは身近なところにもあります。先生方ご自身も一回り大きくなって、「夏休み明け」を迎えてください。

#### <目次>

○9月に向けてやるべきこと	P 2	○連載「希望学」②	
○～教研前会長に聞く～「この夏の自己研鑽」	P 7	玄田有史氏インタビュー(2)	P 12
○県教育委員に聞く「おすすめの一冊」	P 9	○行政派遣教員インタビュー(有馬教諭)	P 13
○「ミケランジェロ展」の芹川貞夫氏	P 10	○お知らせ	P 14

校種ごとに  
読んでください

## 9月に向けてやるべきこと

### <小学校教員向け> 外国語活動と理科実験

#### ○英語力の向上に取り組む

小学校5，6年生で「外国語活動」が始まって、3年目を迎えました。まだ「外国語活動」の授業を実施したことがない方もいるでしょうが、今後は、すべての小学校教員が指導に関わる可能性があります。テレビやラジオの英語講座など、身近な学習の方法が多くありますので、これを機に、先生方ご自身の英語力アップに取り組んでください。8月1日には研究所主催の研修講座が、8月7日には県主催の研修会が実施されますので、参加を申し込んでいない方も、参加した方から、会の内容等の情報を積極的に得るようにしてください。また、各小学校においても、「外国語活動」に関わる校内研修会の実施を検討するなど、教員の英語力向上に努めてください。

「外国語活動」は、クラス内のコミュニケーションを活発化するのはもちろん、国際理解教育にもつながります。「異種なもの」に対する子どもたちの理解が深まることで、クラス内においても互いを認め合う雰囲気も醸成されます。「外国語活動」を「学級経営の柱に位置づける」くらいの前向きな取り組みとなるよう、準備を進めていきましょう。

#### ○理科実験の準備をまとめて行う

小中学校ではこの夏、「夏休み理科実験応援プロジェクト」に取り組んでいます。このプロジェクトは、子どもたちの要望を受けて補充指導をしたり、自由研究のアドバイスをしたりすることを目的に始められ、2年目を迎えます。昨年は子どもたちや保護者から、「自由研究の途中段階で指導を受けることができ、大変役に立った」など、歓迎する意見が多数寄せられました。今年も登校日や補充学習日などを有効に活用し、子どもたちが興味・関心を持ち続けられるよう、効果的なアドバイスをお願いします。

また、夏休みは、日ごろなかなか時間が取れない理科実験の準備を、まとめて行う絶好の機会です。理科主任を中心とした理科担当者で、9月以降の実験教材について確認し、各種研修講座や教育研究大会などから得た情報や\*HPなども参考にして、模擬実験等の教材研究に取り組んでください。

加えて、理科室の環境整備も大切です。夏休み中に理科室の状況も再チェックし、使いやすい理科室作りに取り組んでください。(理科室作りについては「明日への学び」第10号の多田先生の記事が参考になります。)

\*県教育研究所 (<http://www.fukui-c.ed.jp/~fec/>) には随時アクセスしてください。新しい情報を手に入れることができます。また、JST(独立行政法人科学技術振興機構)の理数学習支援センターでは、理科教育用デジタル教材を開発して「教育目的かつ非営利」を条件に右記のアドレス(理科ネットワーク)から無料で提供しています。<http://www.rikanet.jst.go.jp/>

## ＜中学校教員向け＞

### 中学1年生の指導と高校まで見越した教科教育

#### ○中学1年生の補充指導を

中学校1年生は、入学して4か月近くが経過しました。個々の生徒の生活面や学習面での適応状況を、一度よくチェックして、いわゆる「中1ギャップ」をつくらぬよう、小中学校の溝を十分に埋める指導が必要です。

また、中学校1年生にとって、この時期での学力面の遅れは深刻です。7月以前の学習事項をこの時期に補完しておかないと、生徒は9月以降の授業に対応できなくなります。理解度の低い生徒に対しては、夏休みの個別指導等を利用して、しっかりと補充をお願いします。

#### ○「自らの授業観を見つめなおす」～高校卒業までを見越した教科教育を～

この時期に、教科指導について考えていただきたいことがあります。授業づくりが、目の前の高校入試にとらわれたものになってはいないかということです。学力向上センターでは、幼児期から高校卒業までの接続を重視した、「福井型18年教育」の推進を目指しています。高校卒業時に身につけているべき力を意識した授業づくりを目指せば、授業の質は飛躍的に向上しますし、高校入試に対応できる力もおのずとついてくるはずです。高校の学習内容を十分に把握し、高校卒業まで見越した教科教育の在り方を、自分の「授業観」という根底の部分から見つめなおしてください。

## ＜高校教員向け＞

### 専門性の追究と、進学および資格試験対策

#### ○専門性を高める

教科の専門性を高める取組みは日常的に行うものですが、この時期には、少し腰を据えた研鑽をすべきです。領域を絞って専門書を読み込んだり、県内外で実施される学会や研究会の情報を収集して積極的に参加したりしましょう。専門性を高めるための研鑽は、成果を授業に生かせることが理想です。「授業作り」を念頭に、主体的に取り組んでください。

#### ○普通系教科の先生は

課外授業に追われる日々かと思いますが、夏休みは、2学期以降の特別講座、センター対策授業等の準備もしておく時期です。これらの演習教材の準備は、教員自身のスキルアップにもつながります。平成25年度入試は、センター試験の難化を受けて、地方大学・地元大学受験者層が厳しい結果となりました。超難関・難関大学受験層の生徒に対する指導の準備と同時に、幅広い学力層の生徒に、センター試験の難化にも堪えられる力がつくよう、各校・各教科で対策を講じてください。なお、演習教材の準備には、福井県の高教員が作成した平成24～21年度入試（東大・京大・北陸地区の国公立大学）の詳解がアップされている「高校生応援サイト（※アドレスは下記の通り）」も参考にしてください。

（\*[http://www3.fukui-c.ed.jp/~koukouseiyouen/htdocs/index.php?action=pages\\_view\\_main](http://www3.fukui-c.ed.jp/~koukouseiyouen/htdocs/index.php?action=pages_view_main)）

パスワードは各校の担当者にお聞きください。担当者の方は、今一度、全教員にパスワードの発信をお願いします。

## ○職業系専門学科の先生は

9月以降に、資格試験や各種コンテスト等が開催される専門教科がありますが、それに向けて指導内容の確認や対策指導の準備を整えておいてください。特に実技を伴う試験については、模範指導ができるよう、教員自身の技能チェックもこの時期にお願いします。また、2月には「ふくい職業教育フェア」が行われます。年度当初から「課題研究」などに取り組んでいることと思いますが、今一度進捗状況を確認し、計画を再構築してください。

## <特別支援学校教員向け>

# 施設・事業所と積極的に関わる

## ○それぞれの生徒に応じた準備を

特別支援学校においては、子どもたち一人ひとりによって指導方法が異なる場合が多く、子どもたちに合わせたオーダーメイド的な準備が必要です。7月までの指導方法や生活支援の状況を振り返り、9月以降の指導内容等を見直していきましょう。それに合わせて、個々の生徒に応じた補助教材づくりや日常生活の支援グッズ作りなどの準備も整えてください。

## ○施設・事業所と積極的に関わる

夏休みになると、子どもたちは一時預かりの事業所などに通うことが多くなります。家庭や学校以外での様子を観察することも、家庭訪問同様、貴重な情報を得ることにつながります。

各施設や事業所は、夏休みに子どもたちの世話をする支援者を必要としています。そういう事業所に積極的に足を運び、活動支援をしてはいかがでしょうか。子どもたちの活動の場に関わることで、子どもたちの様子を観察できるだけでなく、教員にとっても研修となり、自身のスキルアップにつながります。

また、高校3年生にとって、夏は進路決定の時期でもあります。施設・事業所をはじめとして、就職先の情報を得ることは、進路指導をする上で重要です。関わる機会を増やすことで、関連施設の情報をできる限り集めていくよう心がけてください。

## <若手教員向け>

# すべてが自らのスキルアップにつながる

経験の浅い先生にとっては、一日一日が大切な積み重ねであり、すべてが自らの研鑽につながります。一つでも多くのことを積極的に吸収し、キャリアを積み重ねる努力をしてください。

<全教員向け>で後述しますが、子どもたちとの関わりという点では、学期中とは違った人間関係の構築が可能です。若手教員は子どもたちとの精神的距離が近いことが長所でもありますが、時にそれが指導の難しさを生んでしまうこともあります。「絶妙な距離感」を先輩教員の姿から学んでいってください。

授業力向上という点では、少し余裕のあるこの時期を利用して、積極的に授業案作りに取り組むことが大切です。先輩のアドバイスにも耳を傾けることももちろん大切ですが、既成の授業案に頼らない、自分に合った授業案作りにもチャレンジしてみてください。作った授業案の一つひとつが、自らのスキルアップにつながりますし、新しい考え方を持ち込むことは、職場の活性化にもつながります。若さ、柔軟な思考力を生かし、学校全体の授業力向上につなげてください。

教員同士のネットワークも大切ですが、教員以外との関わる場にも積極的に参加しましょう。人生のキャリアを積むことが、教員としての成長にもつながります。

## <全教員向け> 教員の夏休みの標準的なタスク

### ○子どもの情報を整理する

7月にはほとんどの学校で保護者会が実施されています。その際に話題となったことは、今後の指導に生かしていかなければなりません。7月までの個人データも含めて、各担任が工夫した「個人別カルテ」などで整理をして、学習面・生活面などのすべての点において、9月以降の指導に生かせるようにしてください。

### ○授業改善、教材研究などに取り組む

この時期に、仲間を巻き込んで授業研究に取り組むのも有意義です。たとえば、同世代の仲間には声をかけ、単元を絞り指導案を検討したり、大学入試問題について議論するミニ研究会を企画したりするのはどうでしょうか。自主研究会を行っているグループに参加したり、大学の先生の研究室を訪れて、自分の課題を相談したりするのもいいでしょう。また、こうした授業研究の際には、県内の教育研究所や嶺南教育事務所などの施設も大いに活用してください。

さらに、授業研究の成果を発表したり論文にまとめたりすることも大切です。周囲に伝えるために考えを再構成することは、教員としての力量を高めることにもつながります。

この時期は、各種教育研究大会や研修講座も普段より多く開催されています。受け身になることなく、意欲的に参加してください。教育研究所HPからアクセスできる「教育情報フォーラム」にもさまざまな情報が集まっていますので、定期的にアクセスして、教育情報の収集に利用してください。

### ○生徒との関わりを深める

中学校や高校の場合、夏休み中でも、部活動という生徒との関わりがあります。一人ひとりに声かけをし、生徒をより深く理解するという点では、この時期はとても貴重です。家庭訪問も同様で、教室では見せない顔、授業とは違った一面が見えてくることがあります。普段対話の少ない生徒と交流し、信頼関係を築き、悩みを聞くよい機会ともなりますので、自然体で話せる雰囲気を利用して、上手に子どもたちとの関係を作っていくてください。

### ○最後に

教員自身の心と体のリフレッシュも必要です。この時期にメディカルチェックも含め、心と体の不安をできる限り取り除いてください。

# どんどん活用・参加してください

□問い合わせ先 中学校関係：教育庁義務教育課(0776-20-0575) 高校関係：教育庁高校教育課(0776-20-0667)

## NHKラジオ

### 夏休み子ども科学電話相談

先生方も積極的にラジオに耳を傾けてください！  
(電話番号は 03-3485-8888)

夏休みの自由研究を支援しています

動物や星のことなら

**福井県自然保護センター** 0770-67-1655

魚や海のことなら

**福井県海浜自然センター** 0770-46-1101

キョウリュウのことなら

**福井県立恐竜博物館** 0779-88-0001

## 福井子ども環境フォーラム

### 「里地里山クラブ」推進校20校の活動成果を発表します

平成25年9月8日(日) 12:20~15:45

場所：越前市文化センター 大ホール

#### <スケジュール>

12:20 開会行事

12:50 ポスターセッション

14:10 実践校5校によるステージ発表

15:30 まとめ講義 15:45 閉会

<コーディネーター> 前園 泰徳氏

福井大学教育地域科学部特命准教授

申込締切：平成25年8月23日(金)

## 小学校教員理科指導力向上研修会

- 1回目研修** 二州地区 8月1日 中池見の観察会(兼 敦賀市小教研理科部会)  
福井地区 8月2日 福井市明新小学校(兼 小教研理科部会福井ブロック)  
鯖丹地区 8月26日 鯖江東小学校(兼 県教育研究所訪問研修)  
若狭地区 8月27日 小浜小学校(兼 コア・サイエンスティチャー養成事業)  
奥越地区 8月30日 恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク  
坂井地区 2学期以降に実施予定 春江西小学校

(兼 コア・サイエンスティチャー養成事業)

- 2回目研修** 丹南地区 10月11日 福井地区 11月15日 奥越地区 11月8日の予定

## どんどん活用してください「白川文字学」の教材研究に活用してください

### ■今村公一「福井発オモシロ漢字教室」太郎次郎社エディタス

白川静博士の故郷・福井県では、子どももおとなも、いきいきと漢字に親しんでいます。白川文字学で成り立ちを学び、カードやパズルで遊びながら、漢字の仕組みとつながりを知る。豊富な実践から生まれた大人気の漢字あそびを、全国へ発信します。



全教員向け

## ～教研前会長に聞く～

# この夏の自己研鑽

「教員の夏の自己研鑽」について、昨年度まで教育研究を先導してこられた3人の方にミニインタビューをお願いしました。教員の日常を見てこられた方々からのアドバイスです。ぜひこの夏を有意義に過ごすためのヒントとしてください。

福井市日新小学校前校長で、昨年度の福井県小学校教育研究会会長、**齋藤常夫氏**に話をうかがいました。

### ○「先生の体験は財産」～先生が体験し、生徒に還元する～

幅広い知識と教養は、教材研究をするうえでヒントとなります。日ごろ体験できないことに取り組めるのが夏の時期です。旅行に出かけて見聞を広めたり、ボランティア活動に参加したり、視野を広げる体験をしてください。

夏休みが終わると、子どもたちからそれぞれの夏休みの話を聞く機会も多いと思います。子どもたちの話を聞くことはもちろん大切ですが、先生方も自分の体験を生徒に話すことが大切です。先生が体験して感じたことや驚いたことを、子どもたちに還元してあげてください。

### ○自分が日ごろ悩んでいることを解決する時期

夏休みは、日ごろから子どもたちの指導や授業づくりについて悩んでいることを解決できる時期です。簡単には解決できないことが多いとは思いますが、中には、少し時間をかけて調べたり、考えたりすることによって解決できることもあるはずです。

教員は普段から課題意識を持つことが大切です。指導がうまくいかないことを、子どもたちや社会や家庭のせいにははいけません。自分には何ができて、自分がどうありたいかを常に意識することによって、課題意識が高まり、前向きな解決の時期として、夏を過ごすことができるのではないのでしょうか。

(齋藤氏は、現在、福井市たちばな児童館館長をされています)

福井市明道中学校前校長で、昨年度の福井県中学校教育研究会会長、**川端喜彦氏**に話をうかがいました。

### ○研修計画を自分で組み、計画的に取り組む

夏休みとは言っても、小学校も中学校も忙しい時代になっています。「時間に余裕があったら研修を受けよう」というスタンスでは、何もせずに終わってしまいます。忙しくても、普段よりは自分の裁量で時間を使える時期ですので、自主的・計画的な取り組みが必要です。

## ○県内外の教育施設や研究会への参加を

県内外の博物館・美術館をはじめとする教育施設の特別展などを積極的に参観し、知識と教養を広げていただきたいと思います。また、教育雑誌やインターネットサイトなどから情報を集めて、自分が関心を持った各種研究集会にも参加してみてください。このような催しへの参加によって、日常とは違った世界にふれることができます。

また、(私は理科の教員でしたが、) 小学校や中学校の理科の先生は、子どもたちが取り組むであろう自由研究に対して、自らも研究してみることも大切だと思います。

## ○読書のすすめ

若手の先生には、知見を広げる意味で、教育関係の専門書や新しい考え方を取り入れられるような本を読んでいただきたいと思います。また、ミドルリーダー世代の先生方には、いま一度、教育関係の専門書をしっかり読んでいただきたいと思います。今まで築いてきた経験と、本から得られる理論との融合により、自分の教育観を確立させることができるのが、この夏休みではないでしょうか。

(川端氏は、現在、福井市中央公民館長をされています)

福井県立高志高等学校前校長で、昨年度の福井県高等学校教育研究会会長、**川村一実氏**に話をうかがいました。

## ○テーマと課題を持って

夏休みと言っても、補習や部活動に追われ、なかなか時間的なゆとりを感じることは難しいかもしれません。しかし、その日々に流されてしまうと、特に成果も上がらず夏休みを終えてしまうこととなります。そうならないためには、テーマと課題を持つことが大切です。自分の専門分野の研究テーマでもいいですし、授業に直結した実践的な研修でもいいと思います。

## ○「研究集録(紀要)」への投稿

夏休みには、各校で作成している「研究集録」に投稿するくらいの意気込みで、研究をまとめるのも大切です。最近は各校の「研究集録」への出稿が、専門分野の研究に偏ってきており、授業に直結した内容が少なくなってきました。授業に直結した実践的な研究を投稿することにより、他の教員との意見交換の場が多くなります。これは、校内における授業づくりの議論のきっかけにもなるでしょう。

## ○多くの時間を必要とする教材づくりにあてる

夏は、まとまった時間が必要な教材を作成するには、とてもよい時期だと思います。私は国語の教員でしたが、とくに古文の指導において、中学校と高校のギャップを埋めたいと考えて、教材作りに取り組んできました。中学校では古文単語を辞書で引く経験もほとんどしていません。古文嫌いを作らない工夫が必要だと考えました。

これは実践の一例です。毎年の夏ごとにテーマを持って教材作りをするのも、夏を有意義に過ごす一つの方法だと思います。

(川村氏は、現在、福井県教育庁教育振興課にお勤めです)

全教員向け

## ～県教育委員会教育委員に聞く～ おすすめの一冊

知識と教養が必要な教員にとって、普段からの読書は、貴重な知識吸収源です。夏には普段読まない分野まで手を広げ、読書に取り組んでみましょう。福井県教育委員、5人の方々の「おすすめの一冊」です。

監修 藤嶋 昭 「世の中の不思議400」 ナツメ社

世の中には不思議なことで溢れています。「一万円札は磁石にくっつく」「肉じゃがはビーフカレーの失敗作」「サイの角は骨ではなく毛のかたまり」。その不思議の理由やしぐみをひとつひとつ分かりやすく紹介して、子どもだけでなく大人までもが知的好奇心を刺激される一冊です。

御紹介者 清川 肇 氏



著者 茂木健一郎 他9名 「考える力を作るノート」～強く生きるヒント9～ 講談社

夏休みには寸暇を見つけて、図書館に出かけてみてください。読書に親しむ先生方の自ら学ぶ姿勢を率先垂範していただき、子どもたちに見せていただけると、良い刺激になると思います。また、空席を奪い合うように、真剣に学ぶ生徒の姿もご覧いただき、そんな子どもたちにいろいろなアドバイスをしてあげてください。

御紹介者 川畑 紀義 氏



監修 武田 鏡村 ～気持ちをすっと落ちつかせる～「禅のことば、禅のこころ」日本実業出版社

副題に「気持ちをすっと落ちつかせる」とありますように、第1章から第8章まで釈尊、道元、一休、沢庵、良寛などの200の「禅のことば」が簡単に説明されています。多くの「禅のことば」に自分自身を照らし合わせて考え、自分の心構えとしたり、心の安らぎを得たりすることができると思います。

御紹介者 吉井 正雄 氏



著者 草柳 大蔵 「継続は力なり」～人生を本音で生きた女校長の記録～ 大和書房

企業は人なりと言いますが、企業内での実務教育や自己啓発教育などの重要性はますます高まっています。私も長らく企業経営に携わっていますが、20年前社員教育に悩んでいたときたまたま出会った本です。こんな教育者がいたのかと少し驚きました。以来時々読み返しています。

御紹介者 小泉 信太郎 氏



著者 宮尾 登美子 「きのね 上・下」 新潮文庫

今年2月66歳で逝去された十二代目市川團十郎氏のご母堂を主人公にした長編小説です。梨園といわれる歌舞伎役者の世界に深く踏み込んで書かれています。作者の文章表現は流れるようでとても美しく、長編ですが引き込まれるように読み進めます。

御紹介者 西野 里佳 氏



全教員向け

## 「奇跡的なプラスの連鎖」による開催

### ～「ミケランジェロ展」開催の立役者・芹川貞夫氏インタビュー～

システィーナ礼拝堂500年祭記念「ミケランジェロ展―天才の軌跡」が福井県立美術館で6月28日から（8月25日まで）開催されています。イタリア・ルネッサンスの偉大なる巨匠・ミケランジェロの彫刻、デッサンなど約60点が公開（半数は日本初）されています。この「ミケランジェロ展」は、東京と福井の2か所のみ開催ということで、近來まれな大展覧会が福井で開催されることとなりました。

この展覧会の開催に至るまでには、関係者のさまざまな労苦があったことと思われます。その舞台裏について、前福井県立美術館館長の芹川貞夫氏にうかがってきました。

## 芹川 貞夫（せりかわ・さだお）

福井県立美術館美術専門員。前福井県立美術館館長。

1952年福井県生まれ。1984年福井県立美術館学芸員。

その後、総括学芸員、副館長を経て2011年から福井県立美術館館長。

定年退職に伴い、2013年から現職。福井日仏協会会長。



### ○大展覧会開催の難しさ

大きな展覧会の開催にあたっては、どうやったら実現できるだろうかと日ごろからイメージをふくらませていますが、クリアしなければならぬ問題が山積しているため、なかなか実現しないのが現実です。これまでも、計画段階でつぶれてしまった企画がいくつかありました。

地方の公立美術館では、潤沢な資金が確保できないのが一般的です。よって、他県の同様な美術館と共同で中規模の展覧会を開催し、特別展をつないでいくのが通常の形式となります。

大展覧会開催の場合、資金問題をクリアするためには、大手マスコミなどからの援助が必要です。しかし、全国的な大手マスコミ組織の援助を受ける場合、その組織がわざわざ地方都市を開催地として選ぶ必要はなく、結局、大きな展覧会はほとんどが大都市圏での開催となってしまいます。

また海外と交渉をする場合も、公的機関の機動力には限界があります。その結果、交渉に時間がかかったり、こちらの希望する内容（作品）が契約に盛り込めなかったりということがあります。この点も、大きな展覧会の実現が難しい一因となっています。

### ○発信（発案）は福井から

「ミケランジェロ展」は、福井からの発案でした。イタリアに強いつながりを持っている企画会社の方に、フィレンツェ、カーサ・ブオナローティ(Casa Buonarroti)美術館 やイタリア文化財省との交渉をお願いしました。カーサ・ブオナローティはミケランジェロ作品の8割を有すると言われており、これまでにカーサ・ブオナローティ以外で公開されていない作品も多数あります。この一連の交渉にある程度見通しが立つまでには数年間かかりました。ある程度見通しがたった段階で、「株式会社TBSテレビ」に援助をお願いしました。

### ○奇跡的なプラスの連鎖

TBSの協力が得られてからは、様々なことが福井にとってプラスに働きました。公的機関と違って民間（TBS）の動きは迅速で、交渉もスムーズに進みました。資金面でのバックアップを得

たことはカーサ・ブオナローティ側にも好印象となったようで、普段なら芸術作品の国外持ち出しに厳しいイタリア文化財省側との交渉も、順調に進みました。

貸出し許可期間が6か月であったことも、福井には幸いました。6か月間となると3か所での開催は日程的に難しく、TBS側も、発案者である福井の開催は決定路線であると理解して下さったため、結果、福井と東京の2か所での開催となりました。3か所以上での開催となると開催経費増も予想されたため、福井にとっては好都合でした。

また、東京の開催が国立西洋美術館であったことも幸いでした。私は西洋美術でもフランス近代美術ですので、開催準備にあたっては、西洋美術館のイタリア美術の専門家から支援を受けることができました。

このミケランジェロ展開催の話が具体化したのは私が館長になった当時（2年前）でしたが、ここからの動きは速く、すべてが好連鎖となり話が進みました。大きな展覧会が実現した上に費用面の負担も少なく済み、私の人生の中でも大成功例となりました。



会場入り口部分

### ○成功の秘訣は「人脈」と「経験」

結果的には、今まで築き上げてきた「人脈」が成功の一因だったと思います。公立美術館の実行力には限界があり、自分たちだけではこのような大きな展覧会は開催できません。企画会社の方をはじめ、多くの方の尽力により、開催までたどり着くことができました。今までの人生の中で築いてきた人脈が、いかに貴重なものだったかを実感することができました。

また、私自身がパリに3年間暮らしたことや、西洋美術に多少なりとも知識があったことも功を奏したと思います。これまでも外国文化と接したり、外国と交渉したりすることがありましたが、これらの「経験」がものを言い、気後れすることなくチャレンジできたと思います。

### ○「第四の価値」を大切に

さらに、福井にとって恵まれたことは、「夏休み開催」が実現したことです（東京の開催は9/6～11/17）。県観光営業部文化振興課でも、各学校に生徒の参加を呼びかけています。学校単位での参加もうれしいのですが、私としては、ぜひとも家族での鑑賞をお願いしたいと思います。

人間の価値の中には、「仕事によって見いだされる価値」「勉学によって見いだされる価値」「遊びによって見いだされる価値」がありますが、このような、「仕事」でも「勉学」でも「遊び」でもない「第四の価値」が重要です。保護者との鑑賞は、学校という勉学の場とは違う価値を見いだすことにつながると思います。ミケランジェロについての予備知識がなくても、芸術作品を見て親子でコメントし合ったり、子ども自身が見るがままの感覚を体験したりすることで、「様々な差異」の気づきにつながります。家庭という場で文化的なものに触れることより、もっと「基本的な感覚」を養うことができます。美術館という場で保護者と話すことにより、子どもたちも「第四の価値」に気づくことができます。子どものころに作品の価値に気づかなくても、「第四の価値」の積み重ねによって、大人になってからでも、その「第四の価値」が広大な宇宙をはらんでいることがわかるようになります。先生方にも、「第四の価値」を大切にさせていただきたいと思います。この「第四の価値」こそが、人生を豊かにするのです。（平成25年7月6日ご本人にインタビュー）

作品の紹介や、展覧会の概要については次の「福井県立美術館 ミケランジェロ展 特設サイト」にアクセスしてください。

<http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/michelangelo/gallery.html>

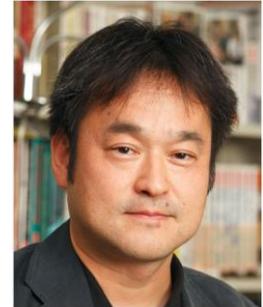
## 連載

## 「希望学」② ～玄田有史氏インタビュー(2)～

「希望学」2回目の連載です。今回は、玄田有史氏に「キャリア教育」を中心にお話をうかがいました。

## 玄田 有史（げんだ・ゆうじ）

東京大学社会科学研究所教授。島根県出身。経済学博士。専攻は労働経済学。東京大学経済学部卒。東京大学大学院研究科博士課程退学。学習院大学経済学部教授などを経て現職。著書に「仕事のなかの曖昧な不安」「希望のつくり方」「14歳からの仕事道」など。編著に「希望学」(1)～(4)。ふくいブランド大使。



### ○「キャリア教育」とは？

「キャリアー」は「運ぶ」という意味で、馬車がものを運ぶと「轍」ができます。「キャリア」の語源は「轍（≡道）」です。キャリア教育とは「人生という長い道を自分で歩く力をつける教育」です。一方、学校でよく使われている「進路指導」という言葉は、どちらかというところ「次の一歩」を考えていく教育という意味合いが強く、「出口指導」にやや偏ってとらえられています。

### ○先生にできること

キャリア教育が「人生という長い道を自分で歩く力をつける教育」だとしたら、「そんな重大なことは生徒に教えられる」と思われる先生もいらっしゃるかと思います。しかし、先生方だれにでもできることがあります。それは「迷ったり悩んだりしたときに、自分がどうやって乗り越えてきたのか」を語ることです。だれでも失敗や試練を乗り越えてきた経験があると思います。そういった経験を子どもたちが聞いたり知ったりすることが、子どもたちの将来の支えになるのです。

### ○学校でのキャリア教育

たとえば中学生に、自分が将来どんな人間になりたいかを漢字一文字で書いてもらいます。中学生は書いた文字についていろいろ説明もしてくれます。それを1年後、2年後と続けてみます。自分が何をしてきたのか、何ができなかったのか、それが今の自分にどう生かされているのか、などを節目ごとに振り返ってみて、自分で進むべき道を探したり、自分に向かい合ったりするのは、立派なキャリア教育だと思います。そういった意味では、福井県が小学校4年生から中学校3年生に行っている「私の夢カルテ」は、たいへん素晴らしい取り組みだと思います。異校種間連携が取れている福井県だからできることだと思います。

### ○迷った時に…

芸術家の岡本太郎氏は、「迷ったら困難な道の方を選んできた」そうです。人間はそんなに強くないので、普通はラクなほうの道を選びたいものですが、「迷う」ということは、ラクなほうに行きたくない理由があるからです。「それなら困難な道を行ったほうがいい」というのが、彼の哲学でした。子どもたちに困難な道に行くことを押しつけるわけではなく、「迷った時にこう考えた」と言ってやれることが真のキャリア教育だと思います。キャリア教育の最高の教材は「先生自身」です。先生が人生をどう生きていこうとしてきたかを、たくさん語っていただきたいと思います。

(平成25年5月15日 ご本人にインタビュー)

全教員向け

## 「行政派遣教員インタビュー」～有馬教諭～

今春の人事交流で、8名の先生が知事部局の行政業務に派遣されました。今回は観光営業部ふるさと営業課に派遣されている有馬昌英教諭です。次号以降で、「行政派遣教員」の特集を組む予定です。

## ○行政派遣に応募した理由

私は、小さい頃から世の中の動きや仕組みに興味があったような気がします。その延長で、学生時代には約30種類のアルバイトを経験しましたし、社会科教員という仕事を選んだのだらうと思います。教員になってからも、教員以外の立場で、学校以外の職場で働くことにも興味があり、行政派遣に応募しました。派遣されている観光営業部は、私が学生時代に専攻した地理学とも関連深い部署なので、派遣先での業務自体にも魅力を感じました。今は自分の仕事で精いっぱいですが、福井県の観光全般についても学びたいと思っています。

## ○現在の担当業務

私は、県庁にある観光営業部ふるさと営業課に所属しています。担当業務は、県外に進学した学生のUターン就職支援が中心です。学生さんや保護者の方に、Uターン就職関連の情報を提供したり、就活関連イベントの運営を行ったりしています。昨年度までの高校勤務時代と比べると、仕事で接する人や、仕事をする場所が一気に幅広くなりました。イベント会場で、成長した教え子たちに会えるのが楽しみの一つです。

## ○学校と行政機関の仕事の違い

赴任当初は、あらゆることが違うと感じました。4月上旬に担当事業関連の会計処理が続いたのですが、用語も仕組みも分からず、とまどいの連続でした。厳格に会計処理が行われており、公金を扱う責任の重さを強く感じました。出張が多いのも大きな違いです。私の専門科目は地理なので、出張の際にいろいろな景観を見られるのは新鮮ですし、授業研究にもなります。東京出張時に新幹線からスカイツリーが見えましたが、周りのビルも高いため、予想よりも低く感じました。近くで見ると、また違う印象を抱くとは思いますが。

## ○県庁勤務で感じること

部署により差はあるでしょうが、コンピュータを使いこなせることが業務遂行の前提になっています。赴任して最初の業務でデータベースソフトを使わねばならず、初心者の私はマニュアル本を買いに走りました。他にも、給与明細のダウンロードを自分でするのですが、定型業務は徹底的に効率化すべきという意図を感じます。学校現場でもコンピュータ化がさらに進むと思いますが、児童生徒相手の仕事では、効率化できない部分や、効率化すべきでない部分も多いはずですが、何を効率化するのか、何のための効率化なのか、忙しい中でもしっかり考える必要があると感じます。

## ○学校現場に戻ったら

現在、県議会の6月定例会の開催中です。公民科の授業で扱う「地方自治」や「行政の役割」などを実感できるやり取り・情報が、職場で飛び交っています。まさに“飛び交う”という表現がふさわしいと感じるのは、福井県が今まさに直面していることを、議会で議論し、行政が執行しているからでしょう。県庁に勤務したからこそ知ることができることを一つでも増やし、授業や校務を通じて、学校現場に還元できたらと考えています。

## ミケランジェロ展—天才の軌跡(システィーナ礼拝堂500年祭記念)

会場：福井県立美術館

会期：6月28日(金)～8月25日(日) 休館日：7/8, 22, 8/5, 19

開館時間：10時から18時(入場は閉館30分前)

料金：一般 1,400円(団体1,200円)

高・大生 1,000円(団体 800円)

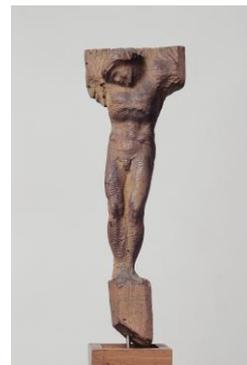
小・中生 700円(団体 500円)

団体は20名以上。未就学児は無料。

障害者手帳提示者および介護者1名は半額。



階段の聖母



キリストの磔刑

### 最大の見どころは「階段の聖母」と「キリストの磔刑」

今回公開されている60点ほどの作品の中には「レダの頭部習作」をはじめとする日本国内初公開作品があります。その中でも特に注目していただきたいのは、「階段の聖母」と「キリストの磔刑」です。「階段の聖母」は、ほとんどカーサ・ブオナローティ館外に出たことのない作品で、「カーサ・ブオナローティの宝物」と言われるものです。ミケランジェロ15歳の時の作品で、造形表現や空間表現を意識したものになっています。一方の「キリストの磔刑」は、最晩年の88歳ころの作品です。宗教心や信仰心をうかがわせ、魂が形になったような作品です。今回この2つの作品を並べて展示しています。70年以上も差のある作品の対比ができるのは今回(福井と東京)限りです。(芹川氏談)

画像作品はすべてフィレンツェ、カーサ・ブオナローティ所蔵 © Associazione Culturale Metamorfoosi e Casa Buonarroti

## 芦泉荘からのお知らせ

### ● 1泊2食付(温泉入浴料込) ●

#### 【組合員価格】

<青葉>	平日 8,100円
<袖山>	平日 9,900円
<文殊>	平日 11,500円
<足羽>	平日 14,500円
<ヘルシー美食>	平日 10,000円

※休前日は各種1,000円増

宿泊

休憩

### ● バーベキュープラン(温泉入浴付) ●

利用時間 11:00～15:00

【BBQ 機材貸出料金+温泉入浴料金】

大人：お一人様 1,500円(税込)

小人：お一人様 800円(税込)

【BBQ 料理】

お一人様：2,000円より

(期間) 平成25年6月1日～9月30日



■ 詳しいお問い合わせについては 0776-77-3200までご連絡ください

## バックナンバーをホームページに掲載しています。

福井県のウェブサイト「学習・教育」のページに教育情報誌「明日への学び」のバックナンバーを掲載しています。<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/gakukyousei/asuhenomanabi.html>

明日への学び

で検索してください。

## ご意見をお寄せください。

住所：福井市大手 3-17-1

連絡先：福井県教育庁学校教育政策課

TEL：0776-20-0295

FAX：0776-20-0668

Mail：[gakukyousei@pref.fukui.lg.jp](mailto:gakukyousei@pref.fukui.lg.jp)